

## グル（靈性の師）

私たちのハートにおわす神の蓮華の御足に、謹んでご挨拶を捧げます。兄弟姉妹の皆さん、私は皆さんに兄弟姉妹と呼びかけます。なぜなら、私たちは同一の人類の一部であるからです。キリスト教、ヒンドゥー教、シーク教、あるいはイスラム教など、何であれすべての宗教は人類の本質的な一体性を受け入れています。私たち全員には同じ神性が宿っています。ただ、それを覆っているものが異なっているだけなのです。プッタパルティで、我らのバガヴァンの聖なる御前で、この至高の真理は、完全に、確実に理解されることでしょう。

今日はシシヤ（帰依者）とグル（靈性の師）との関係において、最も吉兆で重要な日です。それは神聖な結びつきであり、筆舌に尽くしがたく、また理解を超えた絆でもあります。それは目に見えない、人の意識と宇宙意識の絆、アートマ（真我）とパラマートマ（至高の神）の絆です。それはグルの意志と恩寵が注がれたときにのみ生じる絆です。通りや森の中を探ることによってグルを見つけることはできません。人は、グルの意志によってのみ帰依者になることができるのです。

『タイッティリーヤ ウパニシャッド』の中に、サティヤカムという男の話があります。彼はジャバラと呼ばれる女の息子でした。サティヤカムはあるグルのもとへ行って、自分を帰依者として受け入れてほしいと頼みました。そのグルはサティヤカムに尋ねました。「おまえはどのようなゴートラ（家系）に生まれたのだね？」そこで、サティヤカムは母親の元を訪れ、自分の父親が誰であったのか、自分の家系は何なのかを尋ねました。母のジャバラは次のように語りました。「私は召し使いとして働いて、家から家を転々と渡り歩いていました。そしておまえが生まれたのです。私にもおまえの父親が誰であるかはわかりません」

サティヤカムはそのリシ（聖仙）のもとへ行って真実を話しました。リシは真実を話した彼を快く思い、サティヤカム・ジャバルを自分の弟子として受け入れました。サティヤカムのように、私たちもグルの恩寵を受けるに値するようであればなりません。

『マハーバーラタ』の中で、クリシュナ神はプルシャルタとダイヴァムグラハ、

人間の努力と神の恩寵についてお話しになっています。クリシュナ神はプルシヤルタを鋤ですいた畑の畝に、ダイヴァムグラハを天からの雨に例えられました。畑を鋤ですくことなく、天から降る雨だけで草木が育つことがないように、人間の努力や霊性修行を抜きにして、神の恩寵だけで神への熱望という種子が花を咲かせ、葉を出すことはありません。種子が神と一体になりたいという強烈な願いとなるためには、ハートの畑を鋤ですき、自分自身を神の恩寵を受けるにふさわしい人間にしなければなりません。

スワミはしばしば、電流の例えを示されます。電球、蛍光灯、ラジオ、テレビ、コンピューターのどれを使用しても、それらすべてに流れ、これらの装置を動かしている電流は同じです。しかし、最大出力はそれぞれの機器によって異なります。それゆえ今日、我らのグルであるスワミを崇拜し、愛と帰依を捧げるために皆が共に集うこの時、神が示された道に従うことによって、私たちの愛の絆や崇敬の念、神との一体感を強固にすることを決意しようではありませんか。

スワミは教師の中の教師であり、グルの中のグルです。スワミはジャガト グル、世界の教師です。スワミは創造主、ジャガト ニッティヤムです。スワミは全宇宙を所有し、全宇宙に浸透しています。スワミは万物を超越しており、チャラ（動くもの）であり、またアチャラ（動かないもの）でもあります。神のご意志がなければ、一本の草ですら動くことはありません。スワミがこの場にいる機会を与えてくださったのですから、私たちは本当に祝福されています。

実際、それは三重の祝福といえます。第一の祝福は、神がプッタパーティにご自身を顕されたのと同時代に私たちが生まれたことです。二番目の祝福は、スワミの神性を認識するための英知を与えられたことです。そして三番目の祝福は、スワミが私たち皆をスワミのおそばに導いてくださったことです。バガヴァンには何かがあります。その瞳には特別な何かがあります。それは広大で、無限で、普遍的で、深遠です。人はスワミの御前に来ると、スワミへの溢れる愛を抑えることができません。人はスワミの御前で神聖な愛を体験しますが、それでもスワミを完全に理解することはできません。スワミの内なる偉大な神性、百万の太陽の光輝をちらりと垣間見ることしかできないのです。スワミが歩かれればその地は清められ、スワミが腰を下ろされた場所は輝きを放ちます。

スワミのメッセージは他に類を見ません。世界中で、スワミのセンターが存在しない場所、スワミのメッセージが伝わっていない場所はほとんどありません。その計り知れない無限の栄光と輝きを、言葉で言い表すことは不可能です。

それはあたかも物差しで地球の外周を計ろうとするようなものです。スワミは私たちにメッセージをくださいました。それは愛のメッセージです。スワミは常に、「愛はすべての宗教の根本原理である」とおっしゃいます。愛とは、近い者や大切に思う者のみに限定されるものではなく、全人類に広がり、全人類を包み込むものです。愛は無私であり、絶えることがなく、全人類、さらにはすべての生き物を仲間として迎え入れます。そのようなわけで、スワミはしばしば次のようにおっしゃるのです。

**「一日を愛で始め、一日を愛で満たし、一日を愛で終えなさい。それが神に至る道です」**

スワミはジャパや瞑想など、神への道の大半は遠回りであり、直接的な道は愛であると指摘なさっています。スワミの御言葉には、たくさんの真珠が散りばめられています。人は大海に飛び込むだけで、一握りの真珠を手に入れることができるのです。

バガヴァンは、ある御講話で次のようにおっしゃいました。

**「他者と自己の区別をつけない愛が育まれたなら、それで十分です。というのは、すべては全能の神から伸びている四肢にすぎないからです。愛を通してのみ、愛の化身を手に入れることができます」**

そしてまた、次のようにお話しになりました。

**「あなたが他者に施した善行を忘れなさい。  
他者があなたに加えた悪行を忘れなさい」**

愛とはそのようなものでなければなりません。それが、全人類に与えなければならぬ普遍的な愛なのです。あなたが愛を与えるなら、そこには憎しみや恨み、争いや暴力の入り込む余地はありません。ただそれだけが、個人のみならず全人類に平安と至福をもたらすのです。

スワミが私たちに語られるメッセージは普遍的なものであり、あらゆるメシア（救世主）たちによって語られてきたものです。スワミは私たちのために地上に降臨なさった神の化身です。それゆえ、バガヴァンはあらゆる宗教を超越なさっています。実際、彼はすべての宗教の源泉です。スワミは「すべての宗教は等しい」と信じ、そのようにおっしゃっています。

「すべての宗教は、同じ神性という大海に流れこむ川のようなものです。ある人が、ある川に身を置いている間は、別の川に身を置いている人を自分とは異なる人だと感じます。しかし、彼らが神性の大海へと合流すれば、すべての違いは消えてなくなります。そのとき、私たちはすべての人間の最終目標である、自己に内在する神性を認識するのです」

午前中、スワミは私たちに、人間の生命は希少な現象であり、最大限に利用しなければならぬとおっしゃいました。私たちは、自己に内在する神性を認識するために人間としての生命を与えられました。それがすべての人間の目標であり、大望でもあります。ババが私たちに与えられた奉仕のメッセージ、この愛のメッセージから無限の愛が湧き出ています。奉仕は自然に溢れ出る愛によって行われるものです。スワミは常に、神への献身と奉仕の心で利他的に働き続けられるよう、私たちをお使いになります。病める人間社会の中で、非常に多くの人々が苦しみながら、貧しく、見捨てられた、みじめな生活を送っています。スワミはこの思いを美しく述べられました。

「人は、人間の姿をした神を礼拝しなければなりません。神は盲目の乞食として、ハンセン病患者として、子供として、よぼよぼの老人として現れます。人は、これらのベールの裏に、神聖な愛と力と英知の化身を見て、奉仕を通じて、その人を礼拝しなければなりません」

スワミは警句という形で、同様の考えを見事に示されました。

「助ける手は、祈る唇よりも尊い」

また次のように繰り返し強調なさいました。

「人類への奉仕は、神への奉仕である」

スワミがおっしゃったように、これを実行する唯一の道が愛なのです。

愛の例として、ゴーピー（牧女）のクリシュナへの愛、スーラダースのブリンダーヴァンの神への愛があります。スワミはゴーピーの話をなさいました。クリシュナがマトウラーへ行った時、ゴーピー達はクリシュナと離れ離れになることに耐えられずに泣きました。クリシュナもまたゴーピー達のことをいつも思い出していたので、ウッダヴァはクリシュナに尋ねました。

「なぜいつもゴーピー達のことを考えておられるのですか？」

そこである日、クリシュナはゴーピー達への手紙を持たせて、ウッダヴァをブリンダーヴァンへ使いにやりました。ウッダヴァがブリンダーヴァンに着く

と、ゴーピー達はウッダヴァを取り囲んで尋ねました。

「私たちのクリシュナ、私たちのラーラ〔クリシュナの別名〕、私たちの神はどうしておいでですか？」そして、彼女たちは泣き出しました。その時、ウッダヴァは言いました。

「なぜあなた方は泣いているのですか？ クリシュナはどこにでもいらっしやいます。クリシュナはサルヴァヴィヤーピ〔遍在〕です。クリシュナを想って瞑想してはいかがですか？」

ゴーピー達はスーラダースの歌の言葉で答えました。

*Manana Bayo Dasa Bees,  
Ek Huto So Gayo Aur Shyama Sang.  
Koi Adarade Deesh*

私たちに二心はありません。ただ一つの心しかないのです。  
それはクリシュナと共に消え去ってしまいました。  
なのにどうして、クリシュナを瞑想することなどできるでしょう。

これがゴーピー達のクリシュナへの愛です。このようにして、ゴーピー達の愛は『シュリーマド バーガヴァタム』の中で美しく描かれてきました。

スワミの私たちに対する愛も同じです。その愛をスワミに捧げなければなりません。驚くべき事実ですが、スワミはほとんど外出されることがありません。数え切れぬほど多くの人々がプッタパルティを訪れます。スワミに同行すれば、人々の顔にスワミへの帰依心を見ることができます。人々はスワミを一目だけ、ほんの一目だけ見たいと切望しているのです。そのような熱烈な帰依心を人々の顔に伺い見ることができます。200 ヤード（約 182 メートル）も離れたところから、ただスワミの御姿を一目見るためだけに、厳しい天候を物ともせず、野宿する人々に比べ、私のスワミへの帰依心は何なのだろう、としばしば謙虚な気持ちにさせられます。私たちはベンガルの偉大な聖者、チャイタニヤ マハーラブが表現したような愛と帰依心を培うべきです。チャイタニヤは8篇の詩歌のみを著しました。そのうちの一つは、次のように歌われています。

*Yugaitam Nimeshena  
Chakshusha Pragrush Hitam  
Shunyaitam Jagat Sarvam*

## Govinda Vira He Name

クリシュナがいなければ、クリシュナと離れていれば、  
束の間もユガ〔無限に長い時間〕のように思われる。  
涙が私の頬をつたい、流れ落ちる。  
私にとって、この世界は無意味なものとなる。

それがこの種の愛なのです。

かつて、チャイタニヤが浜辺を歩いていると、(彼は晩年の 12 年間でジャガナータプリで過ごした) 波の音が聞こえてきました。チャイタニヤはクリシュナが自分を呼んでいるのだと思い、水の中に入っていました。しかし、漁師の網によって命を救われました。そのような愛を捧げるのは不可能です。しかし、そのような愛を培うよう努力しようではありませんか。幸運にも、私たちの目の前には、化身された神ご自身がおられます。そのため、限りある知性を持つ私たちにとって神に愛を捧げること、神を想うことは容易になっています。このような理由から、スワミはいつも私たちにおっしゃるのです。

「神を想い、神を愛し、神を呼吸し、神に生きなさい」

それは、スワミが私たちにくださった偉大なメッセージです。

短い言葉で、私の話を締めくくろうと思います。人生はまるで氾濫した川のようなものです。それは苦闘するあらゆる生命を凄まじい勢いで運びます。男、女、子供、動物、あらゆる木々や残骸、これらすべてを死の海へと運ぶのです。物体は永遠であるように思われます。なぜなら、それらは私たちと共に流されているからです。しかし、すべては同じように凄まじい勢いで死に向かって流されており、何者も私たちを助けることはできません。父親、母親、友人、親戚でさえ救うことはできないのです。結局、すべては同じ氾濫の中にあります。バガヴァン サティヤ サイ ババという川岸にたどり着くことによるのみ、私たちは安全でいられます。川岸にたどり着きましょう。スワミは私たちのハートを奪われ、私たちの心を奪われました。私たちはスワミ以外、何も考えることができません。私たちに唯一できることは、涙して彼の御足の元にひざまづくことだけなのです。

ジェイ サイ ラム

1996 年 7 月 30 日

ジャスティス・バガヴァティ